

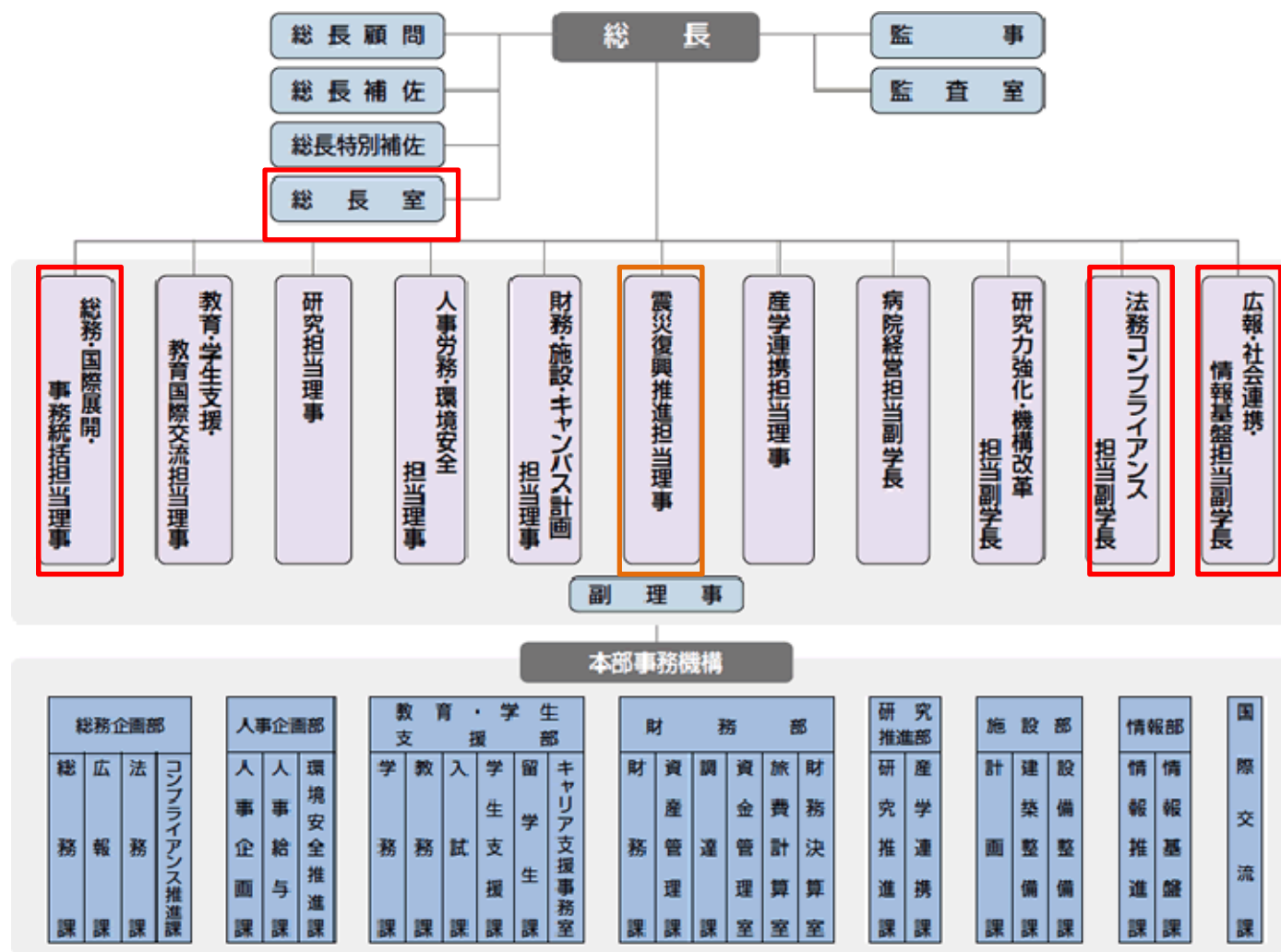


人事交流者連絡会議資料 東北大学 総長室

2015年11月6日

**主任経営企画スタッフ
菊田 克也**

東北大学本部機構



東北大学「総長室」

①総長室構成員

総長室長	植木 俊哉
副室長	兵頭 英治
副室長	青木 孝文
主任経営企画スタッフ	川口 悦生
主任経営企画スタッフ	齋藤 嘉信
主任経営企画スタッフ	菊田 克也
経営企画スタッフ	坂本 直也
経営企画スタッフ	加藤 卓
経営企画スタッフ	結城 峻一
経営企画スタッフ	富田 有紀

総長室長（理事）	1
総長室副室長 （副学長）	2
主任・経営企画 スタッフ（専 任）	6

②総長室所掌(H27)

**総長室の任務:総長が指示する事項に
ついての企画立案及び調整**

グローバルビジョンの進捗管理

**スーパーグローバル大学
等事業の実施**

**災害復興新生研究
機構の運営**

**第三期中期目標・中期計
画策定**

**業務運営改革の
推進**

世界大学ランキング

IR組織の設置準備

里見ビジョンの全体イメージ



東北大学の将来構想

東北大学グローバルビジョン

「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体」＝「知の国際共同体」

◎「ワールドクラスへの飛躍」 ◎「東北復興・日本新生の先導」



教育

東北大学の先進的な取組

研究

グローバル30

- ・英語による学位プログラム (FGL)の実施
- ・海外拠点の充実



グローバル人材育成推進事業

- ・東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL):学部学生1300名以上参加
- ・短期海外派遣プログラム(SAP)の飛躍的増加



多文化共生キャンパス環境

- ・留学生・日本人が共に暮らす国際混住寮ユニバーシティハウス(680室)
- ・国際共修ゼミ
- ・グローバル教海外留学奨励賞



教育・研究組織改革

- ・学位プログラム推進機構(平成27.4)
- ・高等研究機構(平成26.7)
- ・産学連携機構(平成27.4)



研究力の強化

- ・ノーベル賞級研究者を招聘し「知のフォーラム」を実施
- ・世界トップレベル研究拠点プログラムWPI-AIMR



若手・女性研究者の支援

- ・学際科学フロンティア研究所:若手研究者雇用・育成
- ・国際高等研究教育院:多重専攻スーパードクター120名
- ・女性研究者支援事業:サイエンス・エンジェル



日本の大学の真の国際化

世界と対等な教育・研究を実践する大学
世界中から学生が憧れ集う大学

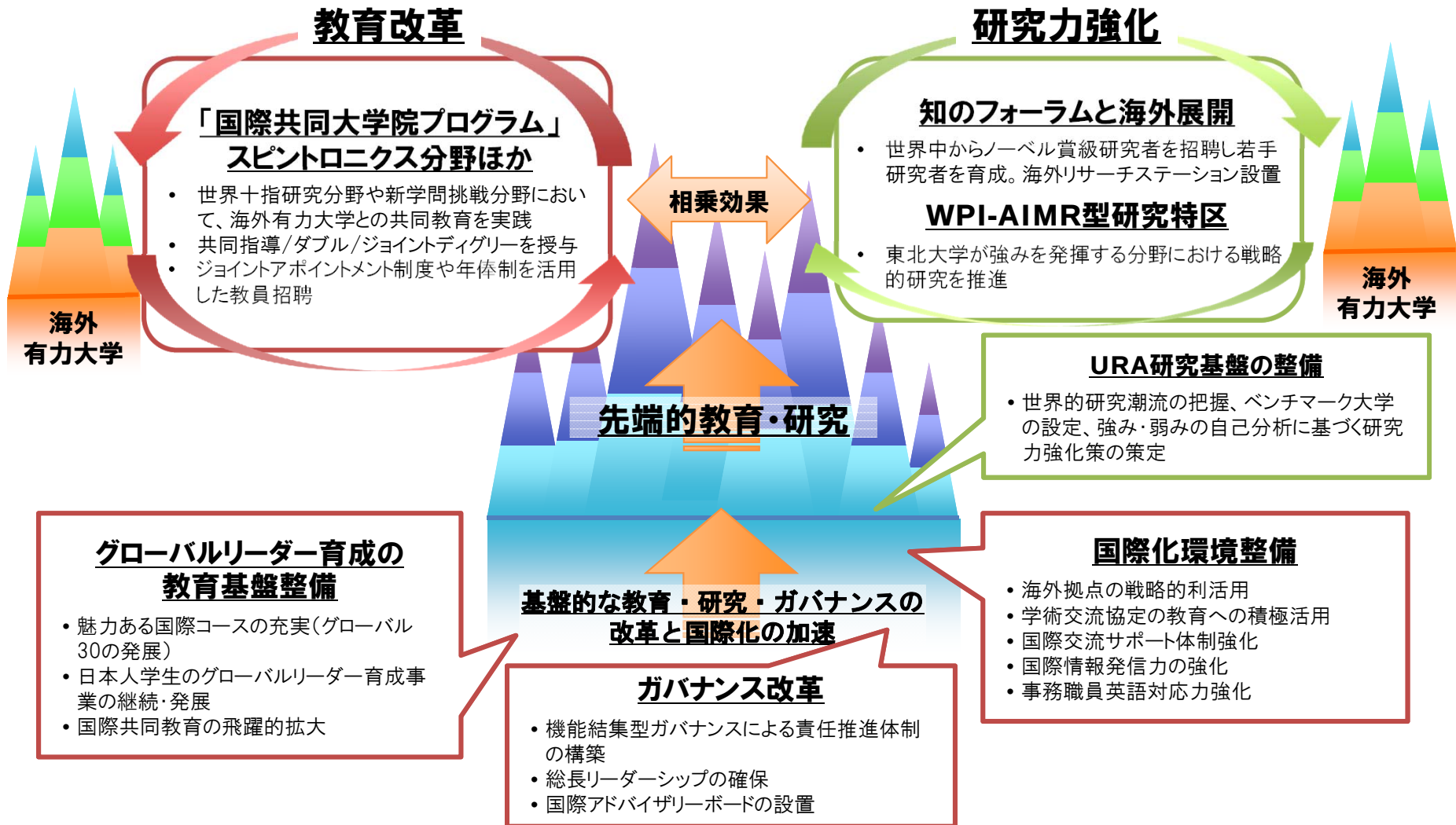
《東北大学グローバルイニシアティブ構想》

「基盤的な教育・研究・ガバナンスの改革と国際化を加速」とともに
世界から人が集い、学び、創造する「国際共同大学院プログラム」を創設し
グローバル時代を牽引する卓越した教育・研究を行う大学へと飛躍

世界から尊敬される「**世界三十傑大学**」の一員へ

東北大学グローバルイニシアティブ構想

グローバル時代を牽引する卓越した教育・研究を行う大学へと飛躍
世界から尊敬される「**世界三十傑大学**」の一員へ



教育改革

「国際共同大学院プログラム」群の創設

- 東北大学の強みを活かし世界を牽引できる分野や、今後重要になり人類の発展に貢献できる分野を選定
- 部局の枠を超えて東北大学の英知を結集し、海外有力大学との強い連携のもと共同教育を実践

狙いと役割

- ①現代的ニーズにマッチし、かつ、世界を牽引する高度な人材を育成
- ②研究力強化に繋がる先端的教育プログラムを創出
- ③将来の知的基盤の構築、国際競争力を支えるイノベーションの創出並びに、持続可能社会の実現などの地球規模の課題解決を牽引

概要

- 部局横断型／学位プログラム型の大学院プログラム
- 本学教員と国際連携先の大学教員による共同指導
- 共同指導／ダブル／ジョイントディグリーへ順次移行
- 5年以内を目途に少なくとも7プログラムを設置

7つの国際共同大学院プログラム

世界十指に入る学問領域の拡大

スピントロニクス
H27

材料科学
H31

宇宙創成物理学
H29

環境・地球科学
H28

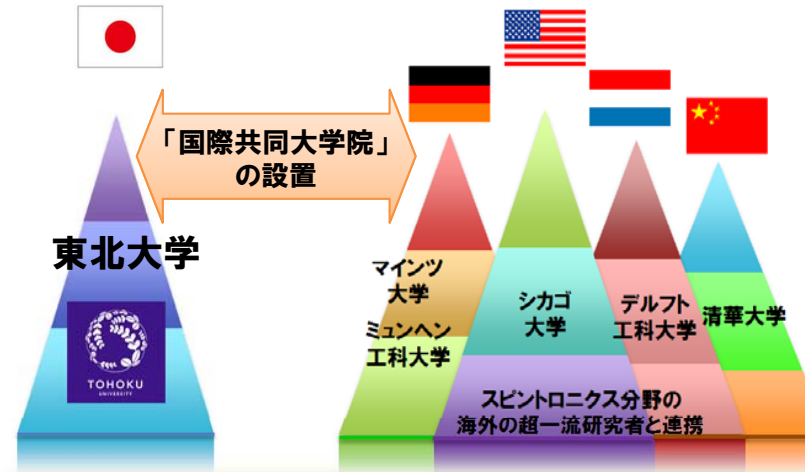
新学問領域への挑戦

データ科学
H29

生命科学
(脳科学)
H30

災害科学・
安全学 H31

「スピントロニクス」領域の例



< 準備状況 >

- 平成26年度中に、学生募集(本学20名、海外10名)
- 平成26年度中に、7名の著名研究者を招聘し打ち合わせ
- 平成26年度中に、外国人研究者3名を雇用し大型設備導入
- 平成27年2月に、マインツ大学と「ジョイントスーパーバイズ(共同指導)ディグリー」の協定締結

○平成27年4月設置



マインツ大学との共同指導
博士学生プログラムの締結
(スピントロニクス)



ケースウェスタンリザーブ大学
との大学間学術交流協定
の締結(データ科学)

研究力強化

知のフォーラムの実施/高等研究機構の設置

知のフォーラムと海外展開

世界中からノーベル賞級研究者を招聘し
若手研究者を育成。海外リサーチステー
ション設置

URA研究基盤の整備

世界的研究潮流の把握、ベンチマーク大
学の設定、強み・弱みの自己分析に基づく
研究力強化策の策定

WPI-AIMR型研究特区

東北大学が強みを発揮する分野における
戦略的研究を推進

知のフォーラム

日本初の訪問滞在型研究施設

3か月程度の期間に、設定された研究テーマにか
かわる研究者が滞在して集中的に共同研究を推
進することで、先端的研究領域を創出し、人類社
会の共通課題解決に貢献することを目的

開催プログラム

平成25年度

- ヒッグス粒子の発見と今後のゆくえ※

平成26年度

- 大規模大量データ時代の統計解析と社会経済での利活用※
- 大震災の復興と今後の防災戦略～実践防災学の創生～※

平成27年度

- 弦理論、ブラックホール、量子情報とその相互関係を含む量子物理学における基本問題について※
- 脳科学最前線※
- スピントロニクス：基礎からデバイスへ※
- 技術変化が社会移動・所得配分に及ぼす影響に関する理論的・実証的研究

※「国際共同大学院プログラム」と密接に連携



知のフォーラム拠点「知の館」



知のフォーラム
「ヒッグス粒子の発見と今後のゆくえ」



知のフォーラム
「大規模大量データ時代の統計解析
と社会経済での利活用」

- ◆材料科学、物理学、化学、工学、数学
の世界トップレベル研究者が集い、新しい
材料科学を創出する

- ◆最先端の研究施設と環境
 - ・研究者の半数以上が外国人
 - ・公用語：英語
 - ・充実した研究サポート



AIMR機構長
小谷元子(数学者)

高等研究機構

本学の研究戦略に基づき、世界最高水準の研究
者が集結できる優れた国際的研究環境と研究支
援体制を構築し、新しい学術分野を創出する

既存の学問領域を超えた新しい学術分野の創出
重点支援/トップ型運営/ジョイント・アポイントメント/
給与インセンティブ

自然科学

ライフサイエンス

物質・材料
(AIMR)

社会システム

国際的な研究環境・研究支援体制の整備
(知の創出センター、レセプションセンター)

本学の研究戦略に基づき、学内のリソースを結集・最適化し、循環させる

学部・研究科

附属研究所

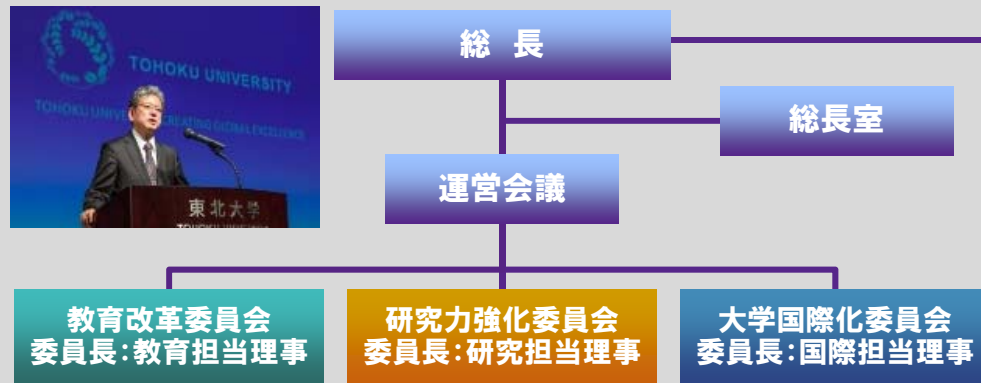
研究センター

特定事業組織等

ガバナンス改革

機能結集型ガバナンス(6つの機構)の構築

東北大学グローバルイニシアティブ構想推進本部



東北大学グローバルイニシアティブ構想 諮問会議(国際アドバイザーボード)

戦略的パートナーシップによって構築されたグローバルネットワークを活用し、海外有力大学学長、グローバルに活躍する民間人等より構成

国際的大学間コンソーシアム

AEARU (東アジア研究型大学協会)
APRU (環太平洋大学協会)
T.I.M.E. (欧州トップレベルエンジニア養成)
HeKKSaGOn (日独6大学コンソーシアム)
RENKEI (日英産学連携スキーム)

協定大学

- 大学間協定数 189
国内大学中 第2位
国立大学中 第1位
- 部局間協定数 348

海外事務所:3 リエゾンオフィス:13

米国、豪州、アジア、
ヨーロッパ、ロシア等

部 局

学内リソース
の結集
兼務教職員の
参画

10学部、16大学院、3専門職大学院、6附置研究所、12学内共同教育研究施設等、附属図書館、病院

グローバル
リーダー
育成の教育
基盤整備

高度教養教育・
学生支援機構
<平成26.4設置済>

学位プログラム
推進機構
<平成27.4設置済>

国際共同
大学院
プログラム

知のフォーラム、
WPI-AIMR

高等研究機構
<平成26.7設置済>

産学連携機構
<平成27.4設置済>

国際化環境整備

国際連携推進機構
<平成26.10設置済>

災害復興新生
研究機構
<平成23.4設置済>

機構長を教育担当理事として、「国際共同大学院プログラム」群を運営。また、多重専攻スーパードクターが所属する「国際高等研究教育院」、リーディングプログラムの質保証を目的とする「リーディングプログラム推進機構」を統合

6つの機構を第2期中期目標・中期計画内に整備

東北大学復興アクション

■ 8つのプロジェクトと、復興アクション100+



復興アクション100+ 100以上の復興支援プロジェクト

災害科学国際研究推進プロジェクト

■ 災害科学国際研究所（IRIDeS）の設置

- ◆ 2012年4月設置
- ◆ 歴史的・世界的大災害の経験と教訓
- ◆ “低頻度巨大災害”危機対応のパラダイムシフト
- ◆ 巨大災害の被害軽減に向けた実践的防災学の創成



「実践的防災学」の創成

災害リスク 研究部門

東日本大震災の被害実態と
教訓に基づく防災・減災技
術の再構築

人間・社会対応 研究部門

被災地支援学の創成と歴史
的視点での災害サイクル・
復興の再評価

地域・都市再生 研究部門

都市の耐災害性向上と重層
化

寄附研究部門

企業などからの寄付金によ
り、大学における教育や研
究の豊富化、活用化を図る

災害理学 研究部門

巨大地震・津波発生メカニ
ズムの解明と次世代地震・
津波観測技術の開発

情報管理 社会連携部門

新たな防災・減災社会のデ
ザインと災害教訓の語り継
ぎ

災害医学 研究部門

広域巨大災害対応型医学・
医療の確立

日本人ゲノム解析ツール「ジャポニカアレイ®」の共同開発



- 独立行政法人科学技術振興機構の「センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」による、株式会社東芝との共同研究の社会実装への取り組み成果。
- 今後、国内外の多くのコホート研究に活用され、個別化医療・個別化予防の加速に貢献する解析技術基盤として、少子高齢化の進む日本社会の活力維持に資することが期待。

東北大学復興シンポジウム

東北大学からのメッセージ ～震災の教訓を未来に紡ぐ～

- 東北大学災害復興新生研究機構のこれまでの成果を発信
- 3月15日(日)東京エレクトロンホール宮城で開催、約1,500名が参加
- 冒頭に潘基文国連事務総長からの特別講演
- 8つの重点プロジェクトリーダーらによるパネルディスカッション
- 災害科学国際研究所の今村文彦所長、日野亮太教授、東北大学病院の石井正教授による講演「未来へ紡ぐ 私からのメッセージ」



潘基文国連事務総長の特別講演

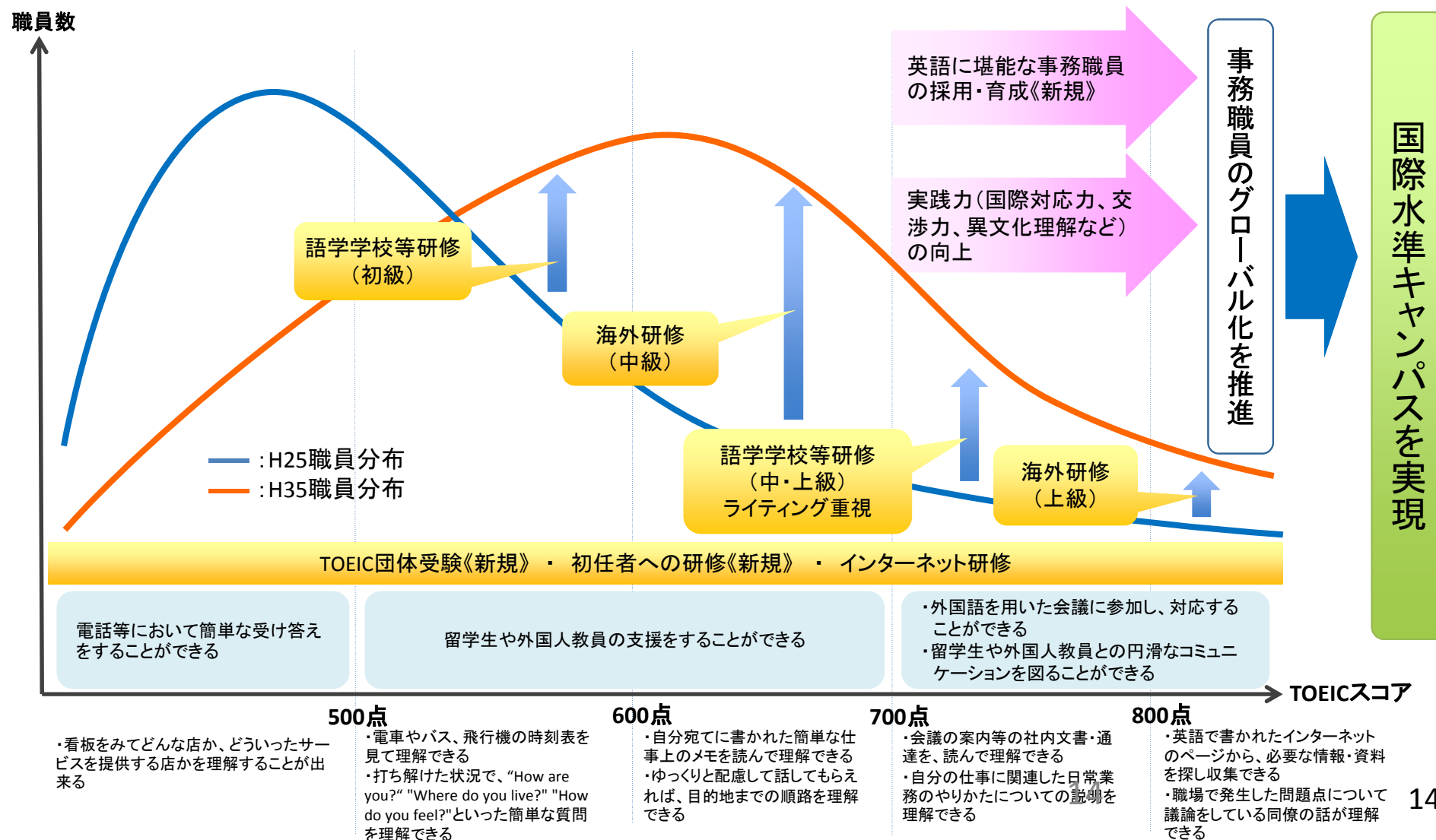


パネルディスカッション

《背景》 里見ビジョン：重点戦略⑬「全学として英語に対応できる体制づくり」

SGU事業における目標：外国語基準TOEIC700点 H25:44名(3%)→H35:213名(15%)

事務職員の英語対応力の維持・向上に努めるための環境整備として、TOEIC団体受験を実施し、SGU事業中間評価(平成29年度)を見据え、原則3年以内に全事務職員が必ず1度は受験を行うことを基本方針とする。なお、受験結果(スコア)は、外国語力基準(TOEIC700点)を満たす事務職員把握のほか、語学学校等研修・海外研修等の対象基準として活用する。



東北大学グローバルビジョン(里見ビジョン)の進捗状況

ワールドクラスへの飛躍

Vision 1 教育

グローバルリーダーの育成

- ・グローバルリーダー育成プログラム(TGL)
- ・短期海外派遣プログラム(SAP)の拡充
- ・グローバル海外留学奨励賞
- ・外国人留学生総長特別奨学生

グローバルな修学環境の整備

- ・英語による学位プログラム(FGL)
- ・GPA制度・科目ナンバリングの導入
- ・国際バカロレア入試・グローバル入試の導入

学生支援の充実・強化

- ・国際高等研究教育院(スーパーグローバル)支援
- ・イノベーション創発博士人財育成:博士・ポストドク就職支援
- ・課外活動奨励賞・学生の企画事業等支援

Vision 2 研究

若手研究者への支援

- ・学際科学フロンティア研究所:若手研究者の雇用・育成
- ・若手リーダー研究者海外派遣プログラム

世界を牽引する最高水準の研究

- ・ノーベル賞級研究者を招聘する「知のフォーラム」を実施
- ・世界トップレベル研究拠点プログラムWPI-AIMR
- ・URAセンターの強化

柔軟な人事制度の構築

- ・ジョイント・アポイントメント制度
- ・特別招聘プロフェッサー、ディステイングイッシュトプロフェッサー、リサーチプロフェッサー制度
- ・新たな年俸制度の整備

復興・新生の先導

Vision 3 震災復興

復興アクションの着実な遂行

- ・8大プロジェクト(災害科学・東北MMB・情報通信、マリンサイエンス等)の推進
- ・復興アクション100+への支援

新プロジェクトの開始

- ・福島第一原子力発電所の廃止措置に向けた基礎・基盤研究と人材育成プログラム
- ・東北復興農業センター
- ・カタールサイエンスキャンパス(子ども科学キャンパス)

震災の教訓・知見の発信

- ・第3回国連防災世界会議への貢献
- ・復興シンポジウムの開催、復興アクションの刊行

Vision 4 産学連携

COI拠点の設置

- ・さげないセンシングと日常人間ドックで実現する理想自己と家族の絆が導くモチベーション向上社会創生拠点
- ・日本人ゲノム開発ツール「ジャポニカアレイ®」の共同開発

出資事業の開始

- ・東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社の設立
- ・事業イノベーション本部の設置

産業界との連携強化

- ・共同研究数の飛躍的増加
- ・共同研究講座・部門数の拡大
- ・ライセンス収入の拡充

大学の国際化
Globalization

東北大学グローバルイニシアティブ構想
・国際共同大学院プログラム群の創設

多彩な個の
力を総合

社会変革のエンジン
Innovation

人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体

Vision 5 社会連携

知縁コミュニティの創出

- ・防災・減災教育事業「結」プロジェクト
- ・サイエンスカフェ・リベラルアーツサロンの拡充

校友会ネットワークの拡充

- ・東北大学ホームカミングデー・各地区交流会・プレミアム会員懇談会の開催、校友歌「緑の丘」

グローバルネットワークの強化

- ・国際的学術間コンソーシアム(AEARU, APRU, T.I.M.E., HeKKSaGOn, RENKEI)への参画
- ・国際発信力の強化(英語版Webの拡充、英語版SNSの積極活用等)
- ・国際交流サポート室の設置

Vision 6 キャンパス環境

多文化共生キャンパス環境づくり

- ・国際混住寮ユニバーシティハウスの拡充
- ・自立的学習を支援するラーニング・コモンズの開設
- ・地下鉄東西線開通に係るキャンパス整備

震災からの復興

- ・被災建物の建て替え、復興プロジェクトによる施設整備の完了

新青葉山キャンパスの集中整備

- ・災害科学国際研究所、環境科学研究科、農学研究科の各新棟、レアメタル・グリーンイノベーション、レジリエントイノベーションの各センター

Vision 7 大学経営

ガバナンス体制の強化

- ・機能結集型ガバナンス(6つの機構)の構築

男女共同・協働の実現

- ・女子学生入学百周年記念事業の実施

コンプライアンスの推進

- ・研究倫理教育の実施・推進

総長リーダーシップによる重点支援

- ・総長裁量経費の戦略的配分、東北大学基金の活用

病院の強化

- ・最先端医療の実践、臨床研究の更なる推進

多様な価値観の構成員がその能力を存分に発揮し
継続的に成長する場を創出

研究第一

門戸開放

実学尊重



東北大学

世界大学ランキング(QS/THE/上海)2015の東北大学の順位【速報】

■世界大学ランキングスコア推移

	11'	12'	13'	14'	15'	
QS世界大学ランキング	70	75	75	71	74	3位↓
THE(Thomson)世界大学ランキング	120	137	150	165	201-250	35位以上↓
上海交通大学世界大学ランキング	97	101-150	101-150	101-150	101-150	—

世界で最も革新的な大学100



The World's Most Innovative Universities

BY DAVID EWALT



"Innovation" is one of the most oft-cited buzzwords in both academia and the business world, but its usage isn't consistent. It can mean that an organization regularly produces new ideas or unique products; that its internal policies and practices are significantly different from the competition; or simply that members are encouraged to think creatively and pursue disruptive ideas.

順位	ランクインした日本の大学
18	大阪大学
22	京都大学
24	東京大学
39	東北大学
51	東京工業大学
58	慶應義塾大学
81	九州大学
89	名古屋大学
98	北海道大学

国	校数	国	校数
米国	50	オランダ	2
日本	9	イスラエル	2
韓国	8	カナダ	2
フランス	8	ベルギー	2
ドイツ	6	シンガポール	1
英国	5	デンマーク	1
スイス	3	中国	1

出典:

<http://www.reuters.com/article/2015/09/15/idUS11N11K16020150915>

総合ランキング		2015年世界三大大学ランキング		
総合順位	大学名	総合点	THE	上海
1	東京工業大学	79.6	201-250	151-200
2	東北大学	73.9	201-250	101-150
3	京都大学	73.9	88	26
4	国際教養大学	72.8	—	—
5	名古屋大学	72.8	301-350	77
6	大阪大学	72.1	251-300	85
7	東京大学	68.8	43	21
8	九州大学	67.0	401-500	300
9	慶應義塾大学	61.8	501-600	301-400
10	北海道大学	59.1	401-500	151-200
11	早稲田大学	58.3	601-800	212
12	筑波大学	55.8	401-500	201-300
13	国際基督教大学	55.3	—	—
14	神戸大学	55.2	601-800	301-400
15	東京外国語大学	55.0	—	—
16	一橋大学	54.4	—	—
17	上智大学	50.4	601-800	—
18	長岡技術科学大学	47.7	—	—
19	東京農工大学	46.9	501-600	501-600
20	立命館アジア太平洋大学	46.7	—	—

最強の大学 ランキング

世界で活躍できる人材を育成できる大学はどこか。世界で戦えるトップの大学を本邦初度ランキングした。

※世界大学ランキングのTHEはタイムズ・ハイヤー・エデュケーション、上海は上海交通大学、QSはクオアカデミクス・ワールド・ユニバーシティ・ランキング2015年度の順位。総合順位は小数点第2位以下を四捨五入している。

読者サービスセンター 2015/11/07 28

■ 第3期中期目標期間に向けた国立大学改革の取組状況



◆ 国立大学における特色ある学部等設置の状況（主なもの）



国立大学改革のこれまでの動きと主な成果

24年度

- 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」答申
- 「ミッションの再定義」開始

25年度

- 教育再生実行会議第三次提言
- 教育振興基本計画、日本再興戦略
- 今後の国立大学の機能強化に向けての考え方
- 国立大学改革プラン

- ▶ 平成26～28年度で新たに12学部設置される(予定含む)など、組織改革を積極的に実施
- ▶ 年俸制(約9,700人)やクロスアポイントメント制度(92人)など、人事・給与システム改革が進捗
- ▶ 国立大学から大学発ベンチャー支援会社等への出資を可能とする仕組みの創設

26年度

- 「日本再興戦略」改訂2014、骨太の方針、科学技術イノベーション総合戦略2014
- 今後の国立大学の機能強化に向けての考え方（改訂）

27年度

- 学校教育法・国立大学法人法一部改正法の施行

- ▶ 大学運営におけるガバナンス改革を促進するため、教授会等の規定の見直し、国立大学法人の学長選考の透明化等

- 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて

- ▶ 中期目標・中期計画素案では、45大学で組織再編が計画されているほか、先進的取組や高い数値目標の設定など、各大学から意欲的に提案

- 第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方について（審議まとめ）

- ▶ 機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するため、予算上、三つの重点支援の枠組みを新設
- ▶ 学長のリーダーシップを予算面で発揮し、組織の自己変革や新陳代謝を進めるため「学長の裁量による経費」を区分

- 国立大学経営力戦略

- 「日本再興戦略」改訂2015、骨太の方針、科学技術イノベーション総合戦略2015

28年度

第3期中期目標期間 開始

24年度

◎運営費交付金のあり方、国立大学経営力戦略等文部科学省の施策

イノベーション・ベンチャー創造の好循環の確立

②イノベーション・ナショナルシステムの本格稼働に向けた大学改革

(大学改革の必要性) 民間企業が中長期の基礎研究を行う余力を失う中、大学が生み出す技術や人材の重要性が増大。

(基本的考え方)

- ① 大学間競争の活性化（改革への重点支援）
- ② グローバルに競う大学の重点強化（特定研究大学（仮称）、卓越大学院（仮称）、卓越研究員（仮称））

国立大学の機能強化（3つの枠組み）

学長のリーダーシップの下、各国立大学はいずれかの枠組みを選択（強み・特性を伸ばす取組を実施）

地域貢献・特定分野での世界・全国的な教育研究

特定分野での地域というより世界・全国的な教育研究

全学的に世界で卓越した教育研究・社会実装

評価と資源配分の仕組みの工夫

測定可能な評価指標（KPI）の設定

透明性のある客観的な評価の実施

評価結果の資源配分との連動

- ◆ 評価結果に応じて運営費交付金を重点的に配分

財務基盤・「稼ぐ力」の強化

- ◆ 大学改革と競争的資金の一体的改革（間接経費の適切な措置等）
- ◆ 財務運営の自由度の拡大（収益事業、寄付金等）

明日の産業・社会を支える フロンティア形成 ～国際水準の大学制度の整備～

①特定研究大学（仮称）の創設

- ◆ 世界最高水準の国立大学を指定
- ◆ グローバルスタンダードでの評価
- ◆ 財務基盤強化のインセンティブ

②卓越大学院（仮称）の創設

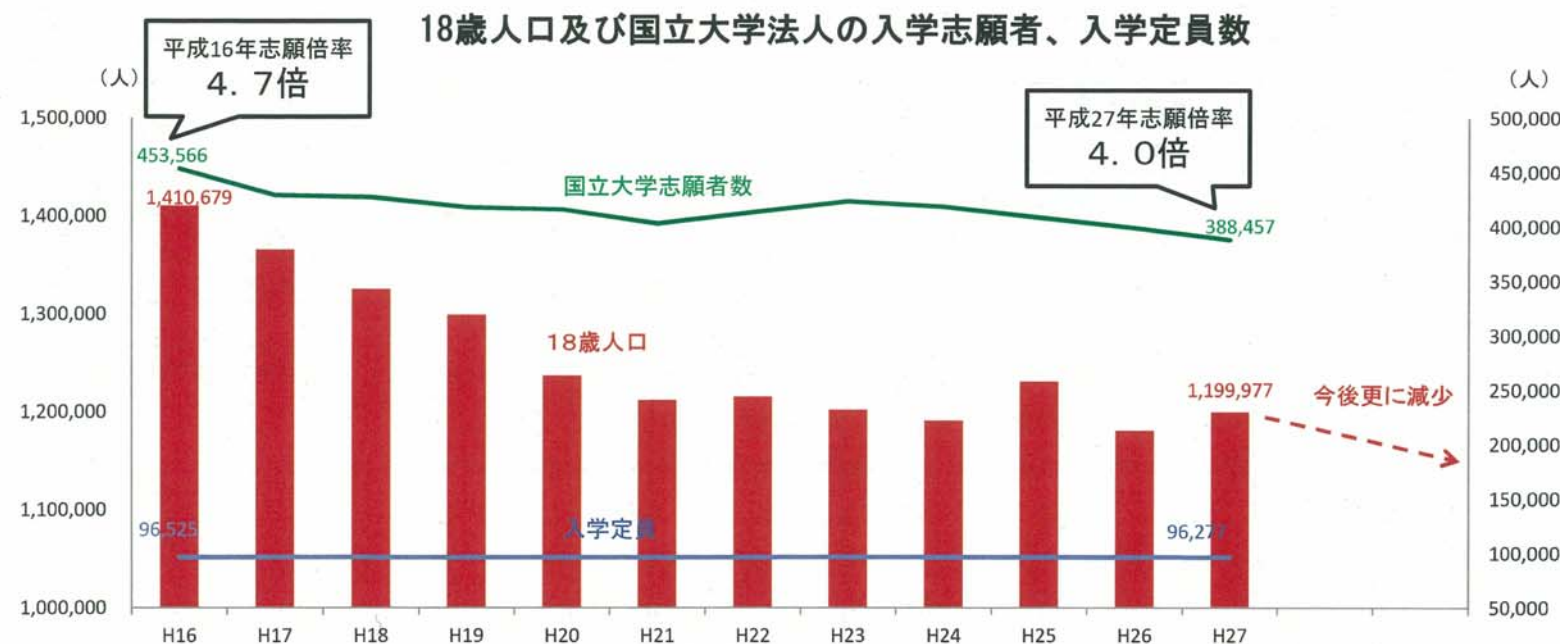
- ◆ 文理融合分野、我が国が強い分野等で設定
- ◆ 新領域・新産業の創造、新規創業の観点も踏まえて仕組みを検討

③卓越研究員（仮称）の創設

- ◆ 優秀な若手研究員が安定したポストにつきながら自由に研究

国立大学における志願者数、入学者数の推移

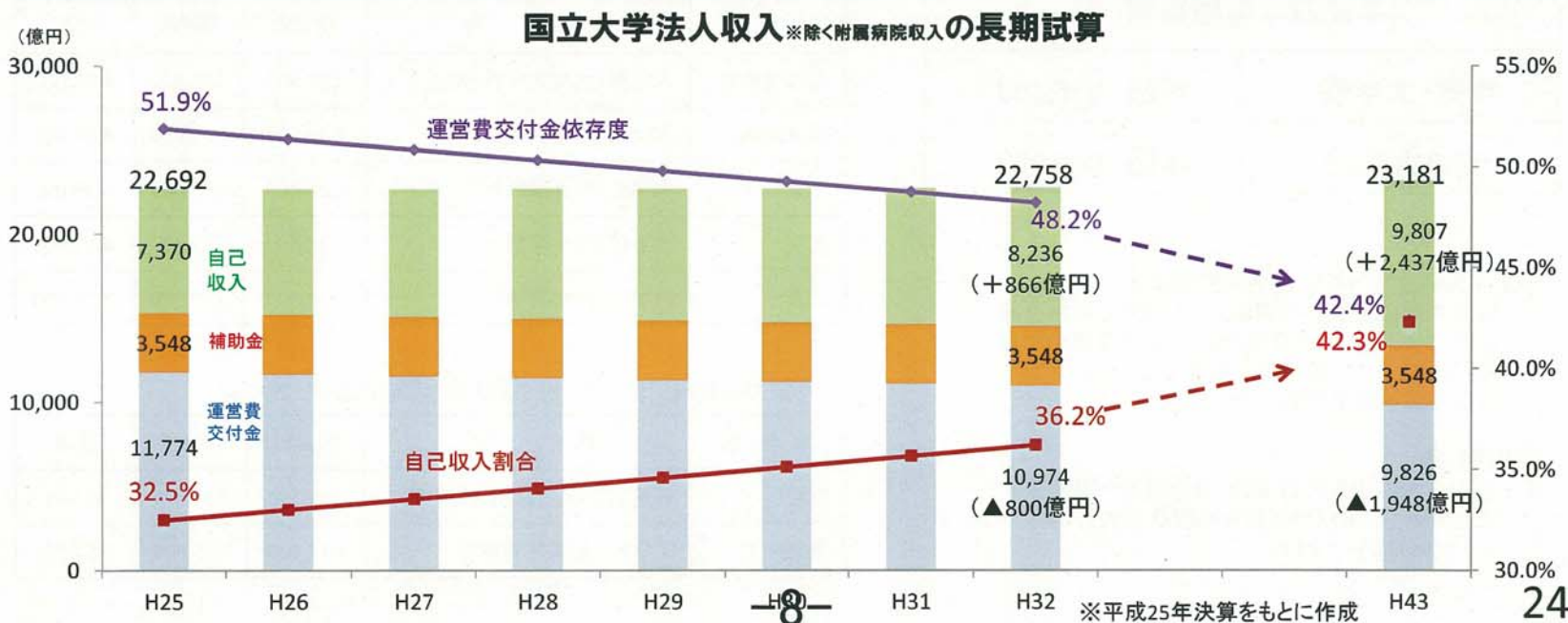
- 18歳人口は減少しており、**国立大学の志願者数は減少傾向**。
- 一方、国立大学の入学定員は法人化以降横ばいで推移。その結果、倍率は低下している。
- 今後も18歳人口が減少していく中で、高等教育の質保証の観点から、**国立大学法人はどの程度の規模を保つべきか、教育研究組織の在り方について再考すべきではないか。**



安定的な国立大学法人運営のために

- 厳しい財政状況、少子化の中でも国立大学法人が安定的な経営を行っていくことを可能とするため、例えば、今後15年間(平成43年度まで※)に、運営費交付金に依存する割合と自己収入割合を同じ割合とすることを目標として設定。
- そのためには、運営費交付金依存度を毎年0.5%低下させなければならない。現在の教育・研究規模を維持しつつ、これを実現するためには、運営費交付金を毎年▲1%減少させ、自己収入を毎年+1.6%増加させることが必要。

※ 平成43年度は、この試算の起点である平成25年度の出生者が18歳となる年であり、また、18歳人口が初めて100万人を下回る年でもある。



これからの主な取組

～平成26年度	平成27～29年度
Vision1 教育	◆アドミッションポリシーに適合する入学者選抜方法の改善 <u>AO入試の拡大</u> ・国立大学で本学が初めて実施(平成12年度)し、国立大学では最大規模数 ・「優れた学力」を重視し、幅広い基礎学力と豊かな人間性を兼ね備えた人を評価 ・現在約20%、平成30年度入試30%を目指す ◆学事暦の柔軟化 <u>クォーター制の導入</u> ・海外サマースクール等への参加⇒本学学生の留学促進
Vision2 研究	◆高等研究機構の拡充 <u>AIMR型研究特区の他分野への拡大</u> ・既存の学問領域を超えた新たな学術分野の創出 ・トップ型運営、ジョイント・アポイントメント制度、給与インセンティブ等の学内システム改革の推進 ◆社会にインパクトある研究の推進 <u>短期間・研究者個人では解決困難な「社会が解決を切望する課題」への取組</u> ・課題ごとに本学教員でチームを編成し、組織的研究を推進 ・課題の設定例: エネルギーの自立化(クリーンエネルギーシステム)、健康長寿社会の実現、巨大な情報量社会への対応(サイバーセキュリティ、ビックデータ)など
Vision5・6・7 社会連携 キャンパス環境 大学経営	◆東北大学基金の拡充 <u>基金メニュー(特定基金)の拡充と戦略的募金活動の展開</u> ◆IR機能の強化(IR室(仮称)の設置) <u>教育・研究活動の多彩なデータを集約・分析・評価し、戦略的な大学経営へ活用</u>

ワールドクラスへの飛躍

これからの主な取組

～平成26年度	平成27～29年度
Vision3 震災復興	◆復興に長期を要する被災地域への貢献 <u>廃止措置等基盤研究・人材育成センター(仮称)の設置</u> ・福島第一原子力発電所の廃止措置に向けた基盤研究の全学的推進 ・専用カリキュラム「原子炉廃止措置等工学プログラム」を設置し、中核人材を育成 ◆「仙台防災枠組2015-2030」への貢献 <u>災害統計グローバルセンターの設置</u> ・UNDP(国連開発計画)やISDR(国際防災戦略)と連携し、世界各国の災害統計データを集積 ・国際標準の災害統計データベースを構築、世界各国の防災政策の立案に貢献
Vision4 産学連携	◆研究成果を活用した新産業創出の牽引(大学出資事業) <u>東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社への出資</u> ・第一号ファンドの設立 ・事業化推進事業型研究の更なる推進 ◆世界標準を目指す産学連携マネジメント活動の展開 <u>産学連携フェロー制度(仮称)や産学連携特区(仮称)の創設</u> ・産学連携活動(規模・質)の全学的推進 ・民間企業とのバリア克服を可能とする制度等の整備
Vision5・6・7 社会連携 キャンパス環境 大学経営	◆省エネルギー・環境負荷低減の取組強化 <u>全学的な電力需給対策、クリーンエネルギー創生や資源循環</u> ◆臨床研究中核病院の指定 <u>医療機器開発拠点の形成の推進</u>

復興・新生の先導

メッセージ



次世代のために
何を為すべきかを構成員と共に考え、
共に達成の喜びを分かち合いながら
一步一步確実に、
人類社会の明るい未来の創造のために
貢献していきたい。

東北大学総長

川内 進

